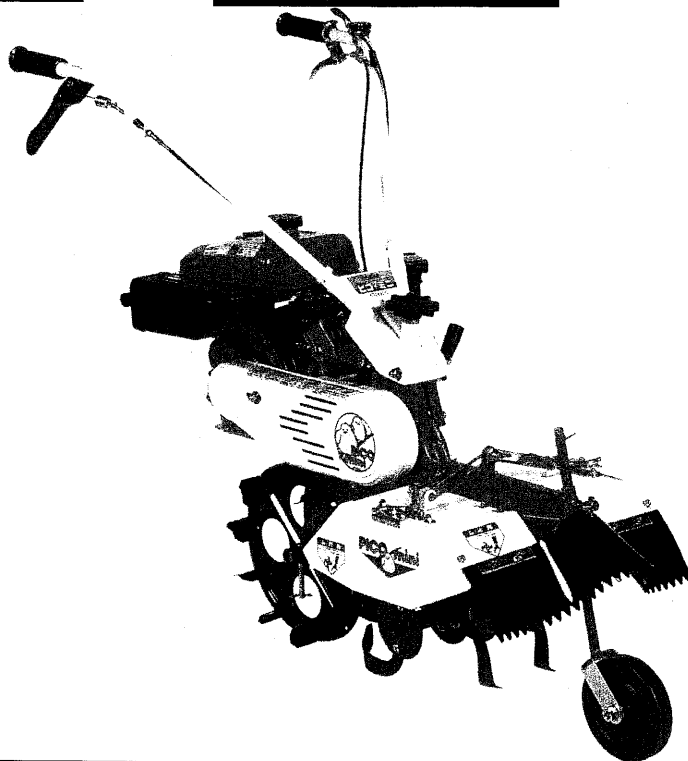


# 取扱説明書

ミニ管理作業機

“ピコ・ミニ”

**P35M**



80-1111-70010



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社 オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

# 目次

項 目	頁
〈はじめに〉	1
〈本製品の規制について〉	1
〈保証とサービスについて〉	1
〈定義とシンボルマークについて〉	2
〈安全に作業をするために〉	2
〈機械を他人に貸すときは…〉	5
〈各部の名称〉	6
〈各部のはたらき〉	7
〈上手な運転のしかた〉	8
運転前の始業点検	8
走行・停止のしかた	11
エンジン始動・停止のしかた	8
トラックへの積み降ろしのしかた	12
〈上手な作業のしかた〉	13
〈長期保管のしかた〉	17
〈各オイルの点検・交換・注油のしかた〉	18
ミッションオイルの注油・点検・交換	18
各部への注油のしかた	19
エンジンオイルの注油・点検・交換	19
〈各部の点検・整備・調整のしかた〉	20
点火プラグの点検・調整のしかた	20
そのほかの点検	22
エアークリーナーの清掃のしかた	20
耕うん爪の点検と交換のしかた	22
燃料パイプの点検のしかた	21
各部ワイヤー調整のしかた	23
燃料フィルターポットの清掃のしかた	21
〈仕様〉	24
〈工具袋・同梱品明細〉	25
〈消耗品明細〉	25
〈アタッチメント(別売品)の紹介〉	26
〈自己診断表〉	26
〈定期自主点検表〉	27
〈エンジンの不調とその処理方法〉	28

## 《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようにご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

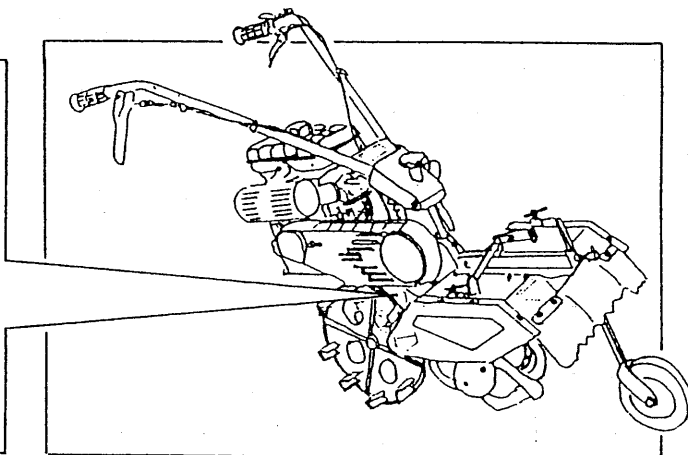
## 《本製品の規制について》

本製品は、農業用の畑の管理機として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。

## 《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。

種類 Description	農用トラクター(歩行型)
型式名 Model	P35M
区分 Type	
製造番号 Serial No.	AW0000000000
発売元	(株)オーレック
OREC 株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON	



### ※注意：

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 《定義とシンボルマークについて》

「危険」、「注意」、「参考」について、本取扱説明書では、次のような定義とシンボルマークが使用されています。これらは安全で快適な作業を行っていただくために、特に重要な部分です。注意深くお読み頂き、十分理解して必ず守って下さい。



**危険：** 人身事故防止用  
 遵守しないと人身事故が発生し、場合によっては死亡の可能性もある。



**注意：** 製品自体の損傷防止用  
 遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与える。

**参考：**

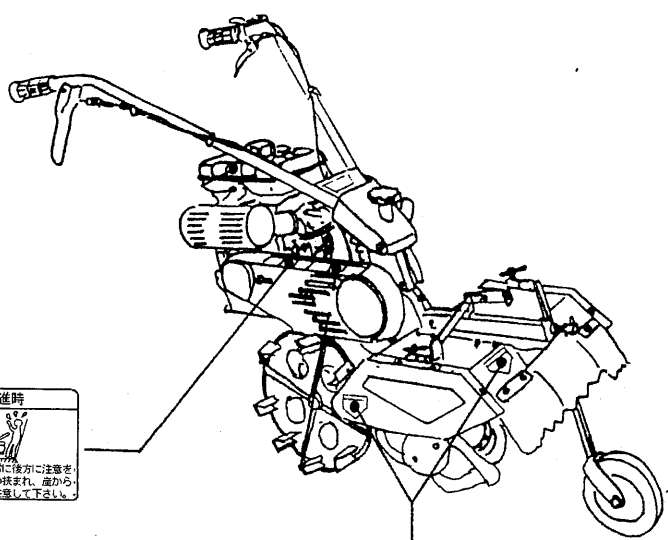
操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項。




## 《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

### (1) 危険表示マーク

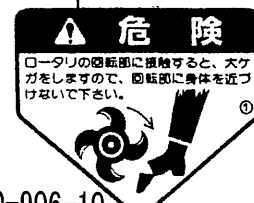
・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- ☞…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈25頁…消耗品明細参照〉
- ☞…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。

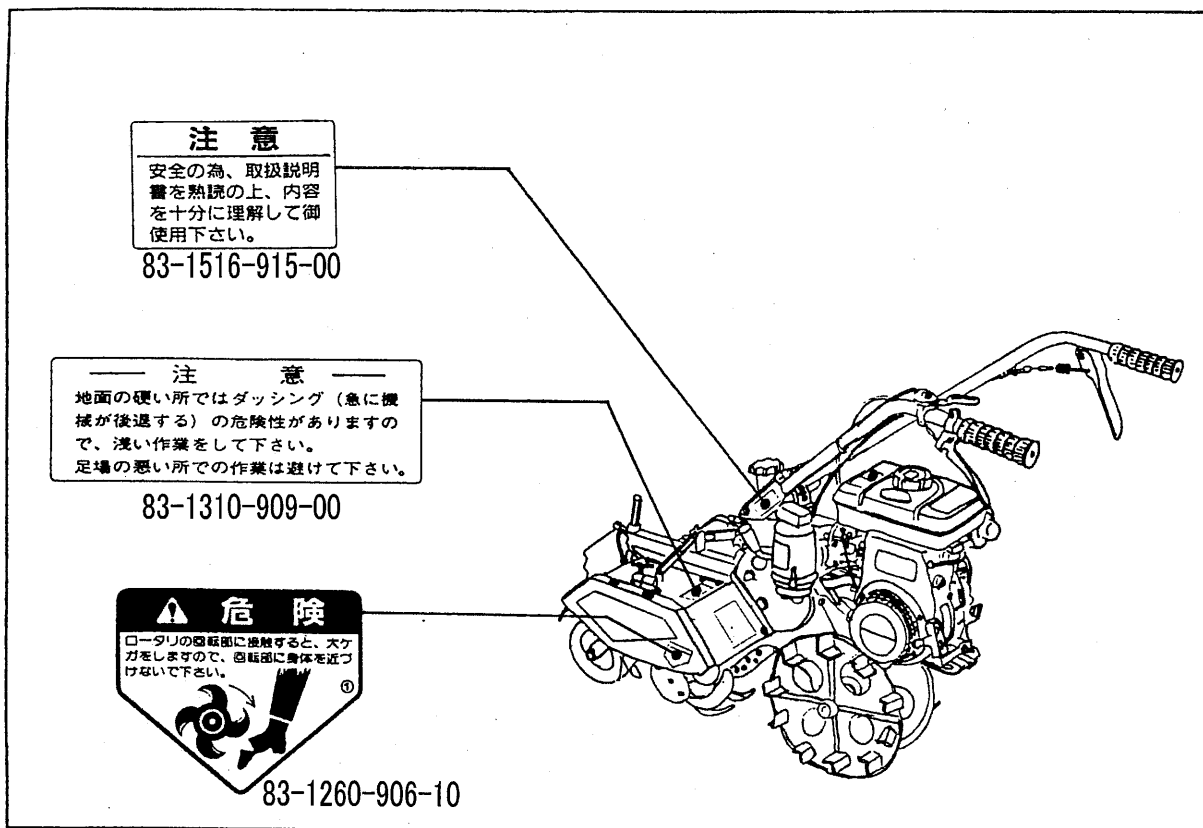


<b>警告</b>	車への乗せ降ろし  車への乗せ降ろしの際には軽 重しないよう、十分に注意し て下さい。(15°以下)	傾斜地での使用  傾斜地での作業は10°以下と し、作業前には境界表示を行い 安全運転を心がけて下さい。	後進時  後進の際は常に後方に注意を 払い、作物との接触、崖から の転落に十分注意して下さい。
-----------	---	---	--

0253-72500-00





83-1260-906-10




## 〈 2 〉 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・オペレーターの体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時のときは作業しないで下さい。  
又、子供や妊婦にも作業させないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、マフラーやタオル等巻き込まれやすいものは着用しないで下さい。
- ⚠️ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。
- ・必ず、タイヤセットピンが確実に取り付けられているか確認し、不完全の場合は確実にセットし直して下さい。
- ⚠️ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。
- ・公道や、人や車の多い私道での使用は危険です。このような場所での運転はしないで下さい。
- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・主クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、主クラッチワイヤーを調整して下さい。
- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業は、これらの勾配角度未満でご使用下さい。

 斜面で不要に主クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。  
斜面では、これらの操作をしないで下さい。


 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に身体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では、本機の山側にはいないようにして下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・狭い橋の上を走行する場合、転落の危険性があります。狭い橋等は走行しないで下さい。

 暗い時、視界が悪い時の使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないで下さい。

### 〈 3 〉 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎた時は、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ず拭き取って下さい。

 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラーの温度が十分下がってから行って下さい。

### 〈 4 〉 始動時の注意


- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・主クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして始動して下さい。
- ・回りに人や動物がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動してください。

### 〈 5 〉 積み降ろし時の注意 〈12頁…参照〉


- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろしはどちらも「移動」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対に入れないで下さい。


### 〈 6 〉 作業中の注意


- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

 排気マフラー付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。

- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

 回転部分は危険です。とくにロータリーカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。

 冷却風の吸込口、シリンダー付近の草や泥詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、泥ぼこりの多い使用状況下ではエアークリーナー内部の清掃も頻繁に行ってください。

 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めて下さい。


- ・堅い土の圃場では、本機がロータリー回転の反力により、前方もしくは後方へ飛び出す事があり非常に危険です。このような場所では、耕深を浅くし二回以上に分けて使用して下さい。

## 〈 7 〉 作業終了後の注意


- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

## 〈 8 〉 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

 ベルトやロータリー部の安全カバー、及び飛散防止用のゴムカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

 ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品に交換して下さい。

- ・主クラッチ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行ってください。

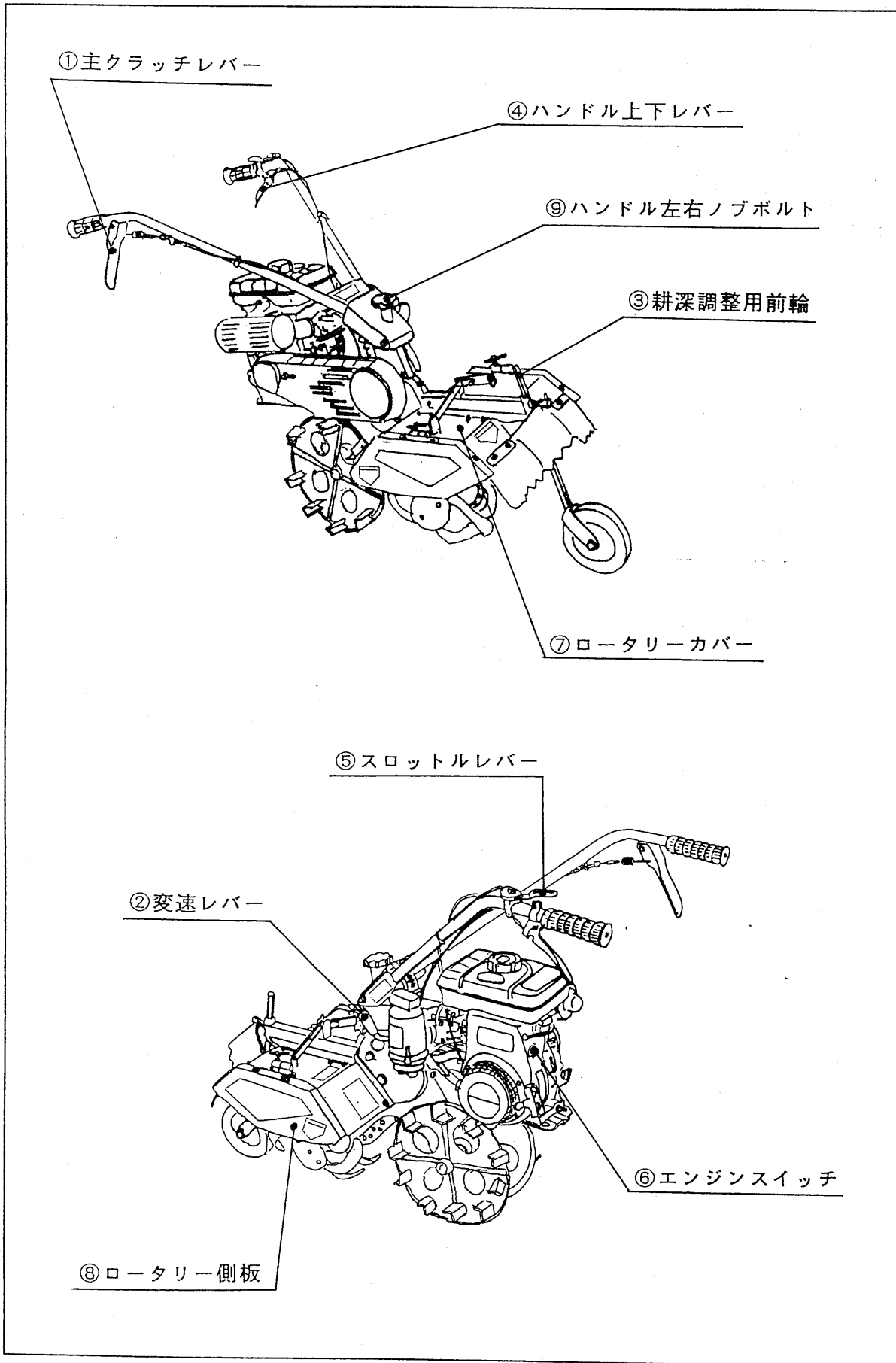
## 《 機械を他人に貸すときは... 》

所有者以外の人には作業をさせないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取り扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取り扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《各部の名称》





## 《各部のはたらき》

### ①主クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーをハンドルと一緒に握ると「入」の状態、離すと「切」の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

### ②変速レバー

変速は下段から「作業」⇄「中立」⇄「移動」の3段階です。

「作業」位置では主クラッチレバーを「入」位置にするとロータリーも連動して回転します。また「移動」位置ではロータリーは回転しません。

◆安全のため操作は主クラッチレバーから手を離して「切」位置にし、本機を停止させた後に行ってください。

### ③耕深調整用前輪

作業深さの調整を行います。

適当な位置で前輪をジャッキボルトで固定して調整します。最初は浅めに調整し、作業をしながら最適な位置へと調整して下さい。

◆安全のため、調整は必ずエンジンを停止させた後に行ってください。

### ④ハンドル上下レバー

作業者の体格、又は作業状況に応じてハンドルの高さを2段階に調整できます。

### ⑤スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

### ⑥エンジンスイッチ

エンジンの「ON」・「OFF」の操作を行います。

### ⑦ロータリーカバー

- ・土の移動が少ない方が良い作業にはロータリーカバーは一番下に下げた状態で作業をして下さい。（中耕作業）
- ・土をある程度の位置まで移動させたい作業には作業目的に応じてロータリーカバーの角度を上下に調整して下さい。（溝掘り・畝立て作業時）

### ⑧ロータリー側板

溝掘り・畝立て作業時、ロータリーカバーと共に溝の形や土の飛び具合により適当な角度に調整して固定して下さい。

参考：

片排土作業時には右側のロータリーカバーとロータリー側板は共に完全に閉じ、調整は左側のロータリーカバーとロータリー側板のみで行ってください。

### ⑨ハンドル左右ノブボルト

ハウスの支柱際等でハンドルを左右に振った方が作業しやすい場合にこのノブボルトを緩めてハンドルの左右を調整します。調整後は作業中、緩まないようにしっかりと締め付けておいて下さい。

## 《上手な運転のしかた》

### 運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈27頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

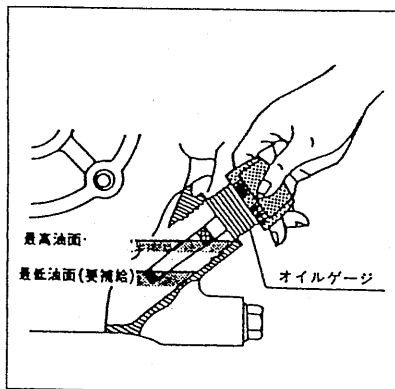
**!** 危険：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

### エンジン始動・停止のしかた

**!** 危険：

- ① 締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。
  - ☞ 締め切った室内でエンジンを始動すると …  
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ④ エンジンの暖機運転は、締め切った部屋では行わないで下さい。
- ⑤ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

### エンジン始動のしかた



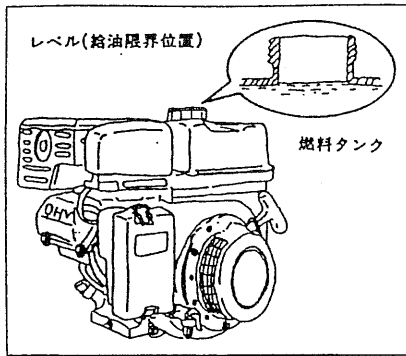
- ① エンジンオイルを確認して下さい。
- ◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。  
オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

**※注意：**

エンジンは水平にして給油栓はねじこまずに差し込んで点検して下さい。

参考：使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い別けて下さい。

☞ …	夏期(10℃以上)	SAE30、SAE10W-30、X#SAE40
	冬季(10℃以下)	SAE5W20X#SAE10W-30



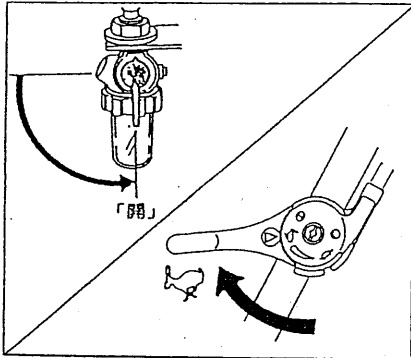
②燃料を確認して下さい。〈タンク容量は24頁参照〉

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。




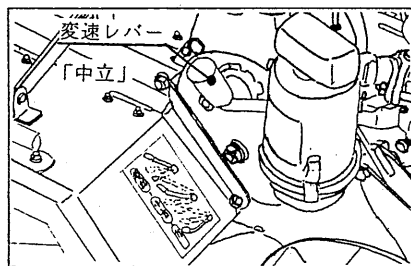
危険：

- ・燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンとマフラーが冷えているのを確認した後、入れ過ぎて燃料をこぼさないよう注意し、もしこぼれた場合はきれいに拭き取って下さい。

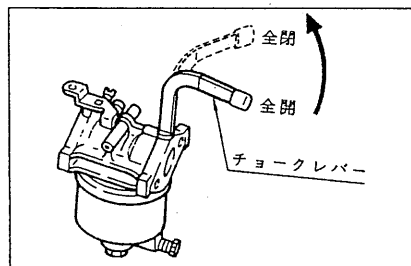



③燃料コックを「開」位置にして下さい。

④スロットルレバーを操作し、「」位置にして下さい。

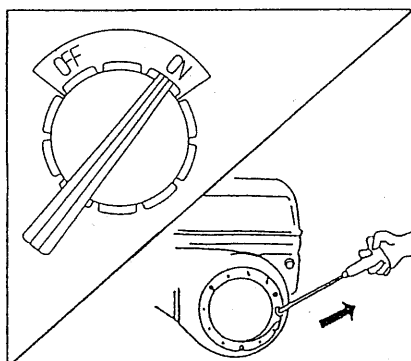


⑤変速レバーを「中立」位置にして下さい。

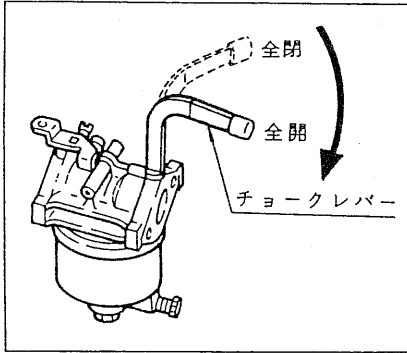


⑥チョークレバーを操作し、チョーク弁を「閉」位置にして下さい。

参考：エンジンの暖機が済んでいる場合には、  
チョークレバーの操作は必要ありません。



⑦エンジンスイッチを「ON」位置にし、スターターノブを握り、ゆっくりとひいて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。エンジン始動後は直ちにスターターノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。

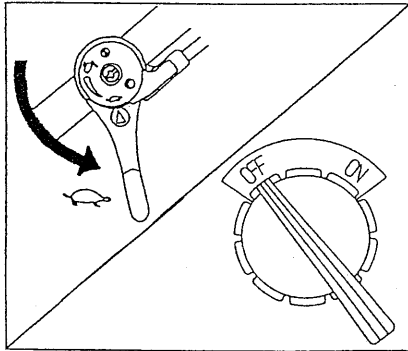


⑧エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「開」位置にして下さい。

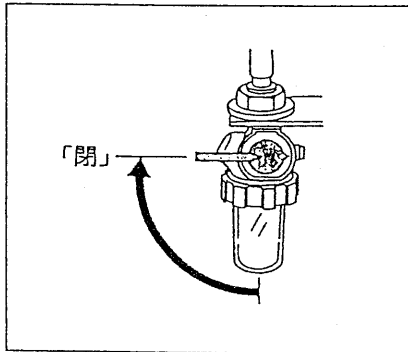
※注意：

- エンジン始動後は負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。

### エンジン停止のしかた



①スロットルレバーを「OFF」位置にし、エンジンスイッチを「OFF」位置にするとエンジンは停止します。



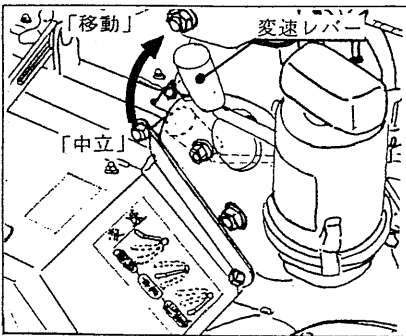
②最後に燃料コックを「閉」位置にして下さい。

## 走行・停止のしかた

### ⚠ 危険：

- ・所有者以外の人には使用させないで下さい。
- ・走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・勾配が10°以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

### 走行のしかた



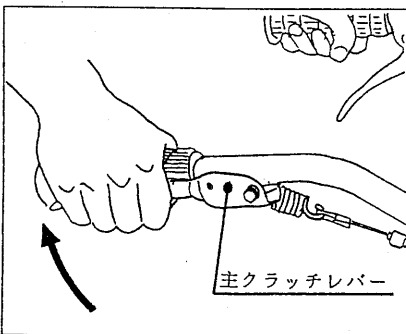
①変速レバーが「中立」位置にあるのを確認後、エンジンを始動させて下さい。



〈8頁…エンジン始動のしかた参照〉

②変速レバーを「移動」位置に確実にに入れて下さい。

### ⚠ 危険：

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときには無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、確実に変速を行って下さい。

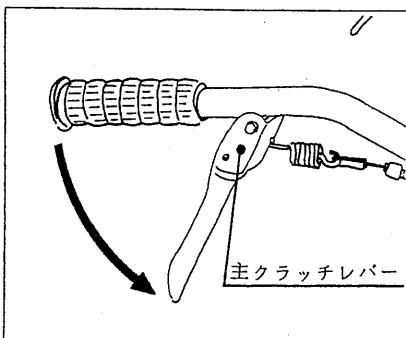


③スロットルレバーを「」と「」の中間位置にし、主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると走行します。

### ⚠ 危険：

安全のため、走行の際前輪は一番高い位置にし、石やその他の障害物に耕うん爪が接触しないよう注意して下さい。

### 停止のしかた



①主クラッチレバーから手を離して本機を停止させて下さい。

②エンジンを停止して下さい。

〈10頁…エンジン停止のしかた参照〉

### ⚠ 危険：

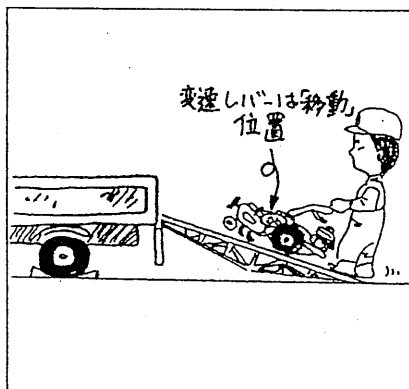
本機から離れるときには、必ずエンジンを停止した後に変速レバーを「中立」位置にしておいて下さい。



## トラックへの積み降ろしのしかた

### ⚠ 危険：

- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- ・本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時に、ブリッジの上で主クラッチレバー、変速レバーの操作は絶対にしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・本機の左右の鉄車輪がブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

### 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーは「」、「」の中間位置にしてください。
- ④ 積み降ろし共に「移動」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

### ⚠ 危険：

トラックへの積み降ろしの際には、ロータリー部を地面から浮かして行って下さい。ロータリーの耕うん爪がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

#### 参考：ブリッジ基準…

- ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。
- ・長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上のもの。
- ・幅…本機の車輪幅にあったもの。
- ・強度…本機の重量に十分絶え得るもの。
- ・スリップしないように表面処理が施してあるもの。

## 《上手な作業のしかた》

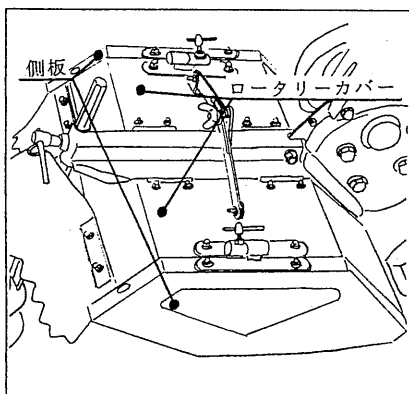
- 本項目内では「中耕作業」・「溝掘り(畝立て)作業」の2つの作業について説明してあります。

### ⚠危険：

- ・ロータリーカバー内の泥や異物等の除去、残耕スキの脱着時等の際には、安全のため必ずエンジンを停止した後に行ってください。
- ・溝掘り(畝立て)作業の際には、ロータリーが剥き出しの状態となり大変危険ですので回転中のロータリーに接触することのない様、特に注意してください。
- ・ビニールハウス内での作業では特に換気に注意し、有毒な排気ガスで中毒しない様に、ビニールの裾を開ける等して換気には十分注意して作業をしてください。
- ・転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。
- ・変速の操作は必ず平坦地で行ってください。主クラッチレバーから手を離して「切」位置にした後に変速レバーを操作します。

◇…傾斜地で変速操作を行うと変速される瞬間に「中立」の状態になり、暴走の恐れがあり非常に危険です。

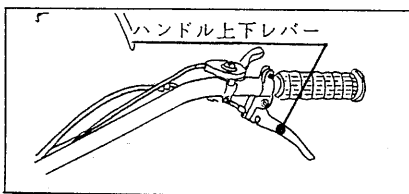
### 耕うん作業のしかた (標準装着品)



- ①ロータリーカバー、側板ともに『閉じ』て下さい。
- ②耕深調整用前輪を所要の高さに調整し、調整後はジャッキボルトで確実に締め付けておいて下さい。

### ⚠危険：

特に堅い圃場の場合、最初から深くかけ過ぎると本機が後ろへ飛び出す(ダッシング)恐れがあり、非常に危険です。このような場所では浅く数回に分けて作業をするようにして下さい。



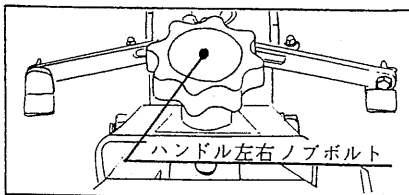
- ③エンジンを始動して下さい。

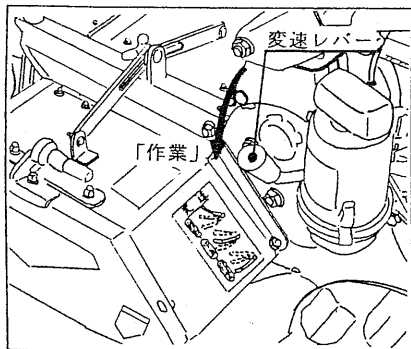
〈8頁…エンジン始動のしかた参照〉

- ④ハンドル上下レバーで適当な位置にハンドル高さを調整して下さい。[ハンドルは左右に振らず中央位置で。]


参考：

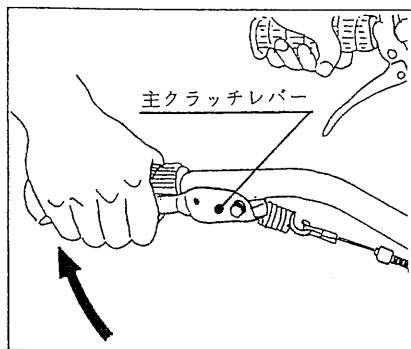
- ・作業者の腰骨あたりにハンドルを位置させ、作業中は心持ちハンドルを持ち上げ気味にしてください。
- ・ハンドル左右の調整はハウスの支柱際等でのみ行い、調整後ノブボルトは確実に締め付けておいて下さい。





⑤変速レバーを「作業」位置に確実にいれて下さい。

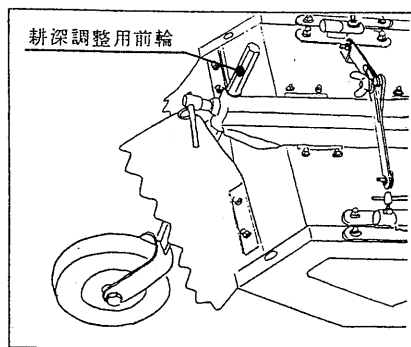
⑥スロットルレバーを「」位置にして下さい。




⑨主クラッチレバーをハンドルと一緒に握って「入」位置にすると作業を開始します。

参考：

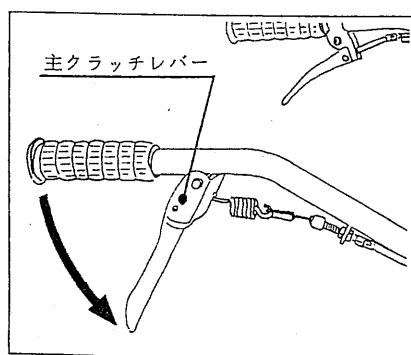
●作業中はハンドルの一番幅の広い位置をしっかりと持ち、ハンドルと身体の間には10cm位の間隔を取って下さい。



⑩作業をしながら耕深調整用前輪にて最適な耕深に調整をして下さい。

 危険：

耕深調整用前輪の調整は必ず主クラッチレバーから手を離して「切」位置にして本機を停止させた後、安全に十分注意しながら行って下さい。




⑪作業を停止する場合には主クラッチレバーから手を離して「切」位置にし、本機を停止させて下さい。

⑫エンジンを停止させて下さい。

〈10頁…停止のしかた参照〉

## 溝掘り(畝立て)作業のしかた

(アタッチ [別売品])

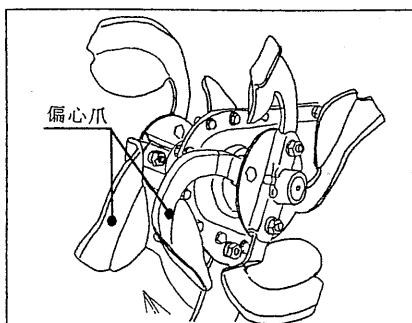
 危険：

特に溝掘り作業においては泥や小石等の異物がロータリーカバーより前方へ飛び出す恐れがあります。作業より前に人(特に子供)がいないことを確認したうえで作業を行って下さい。



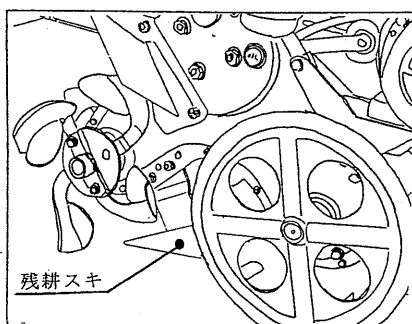
参考：

- ・溝掘り(畝立て)作業は車幅をロータリー幅より狭くして作業を行います。  
溝掘りローターの幅によっては鉄車輪を裏返し車幅をより狭くして作業をする必要があります。このときには特に左右のバランスが取りにくくなりますのでハンドルはしっかりと握って作業をして下さい。
- ・作業は数回に分けて行います。一回で仕上げようとするとう一度上げた土が畝間に崩れ落ち、きれいな溝(畝)は作れません。最低でも2回以上に分けて作業をして下さい。



①ロータリーの回転方向に注意して所要の溝掘りローターと入れ換えて下さい。

- 左右ローターの一番内側に付いている偏心爪の位置を合わせてセットし、同時打ち込み(左右対称)になるようにしてセットピンで固定します。



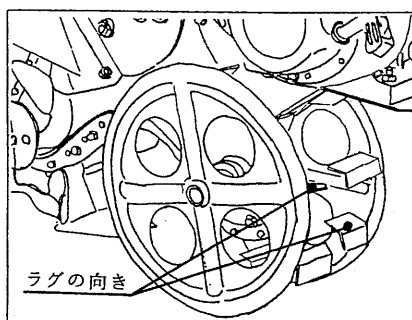
③残耕スキ(付属品)をロータリーケース下部の取り付け穴に確実に取り付けて下さい。

※注意：

残耕スキは溝掘り(畝立て)作業時のみセットし、中耕作業では使用しないで下さい。

☞…中耕作業で使用すると

残耕スキが抵抗となり、鉄車輪がスリップしうまく直進しません。



④左右の鉄車輪を入れ替えて裏返し、ラグを内側に向けて車幅を狭くします。

- 鉄車輪のラグの向きに注意して下さい。

※注意：

この際、溝掘りローターの作業幅より鉄車輪幅が必ず狭くなる様にセットします。

☞…作業幅より鉄車輪幅が広いと

溝(畝)の上、又は斜面を鉄車輪が通る事となり、せっかく上げた溝(畝)を崩して行くばかりでなく、直進安定性が非常に悪くなります。

・鉄車輪の向きはそのまま作業幅の内側に鉄車輪幅を寄せられる場合には左右の鉄車輪の入れ換えは必要ありません。

・作業安定性を確保するためにはできる限り、鉄車輪幅は広く取って下さい。

④エンジンを始動して下さい。

(8頁…エンジン始動のしかた参照)

⑤後は13頁…耕うん作業のしかたを参考にして作業を『開始』・『停止』して下さい。

## 参考：上手な作業の例

### ◎ 溝掘り作業

圃場の条件にもよりますが、3回を目安に希望する作業深さにするつもりで作業をして下さい。

#### ① 1回目

- ・耕深調整用前輪はエンジンが無理しない程度の出来るだけ深い位置として下さい。
- ・ロータリーカバー、側板は共に作業側側に土がかからない程度の位置まで大きく開きます。
- ・上げた土は出来るだけ遠くに飛ばす様にします。
- ・本機がダッシングする様であれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

#### ② 2回目

- ・耕深調整用前輪は1回目より浅くします。1回目よりさらに深くするとダッシングの度合いが激しくなり危険です。
- ・ロータリーカバー、側板はさらに大きく開け、上げた土が溝の中に落ち込んで来ないように注意します。
- ・本機がダッシングする様であれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

#### ③ 3回目（仕上げ作業）

- ・耕深調整用前輪はさらに浅くし、溝の中に落ち込んだ土をさらう感じにします。
- ・ロータリーカバー、側板共に一杯まで開きます。

深さ（仕上がりの状態）が足りない場合には更に同じ操作を繰り返して下さい。特に1回目は安定しないので直進性には十分注意して下さい。2回目以降は1回目で出来た溝にタイヤが沿って行きますので安定性は良くなりますが、それだけに1回目の作業が重要になってきます。

### ◎ 畝立て作業

圃場の条件にもよりますが、最低でも2回以上で仕上げるつもりで作業をして下さい。

#### ① 1回目

- ・耕深調整用前輪はエンジンが無理しない程度の出来るだけ深い位置として下さい。
- ・畝のほぼ中心に土が落ちる様にロータリーカバー、側板を作業をしながら調整します。
- ・本機がダッシングする様であれば耕深調整用前輪をダッシングしない程度まで浅くして下さい。

#### ② 2回目（仕上げ作業）

- ・耕深調整用前輪は1回目より浅くします。1回目よりさらに深くするとダッシングの度合いが激しくなり危険なばかりでなく、未起耕の土をも畝上に跳ね上げて植え付けが出来なくなってしまう。
- ・側板はやや閉じ目にし、ロータリーカバーを調整しながら①回目で上げた土の横に落として行くつもりで作業をして下さい。あまり大きく開け過ぎると隣の畝溝にまで土を飛ばしてしまいます。
- ・畝溝に残っている土をさらえるつもりで作業をして下さい。

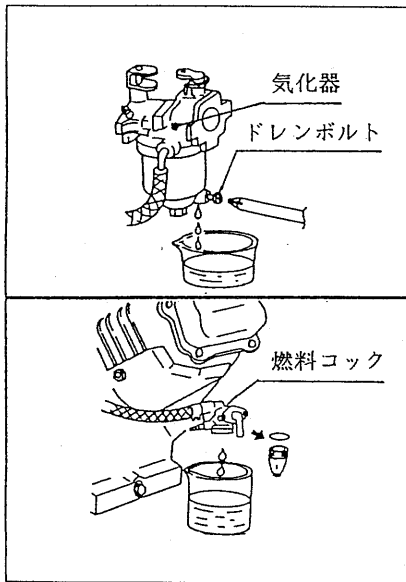
## 《長期保管のしかた》



危険：

★エンジンを停止して下さい。〈10頁参照〉

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・本機を保管する場合には、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈19頁…参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

☞…泥やホコリが堆積したまま作業を続けると

泥等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

参考：ロータリーカバー内に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

☞…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。

## 《各オイルの点検・交換・注油のしかた》

### ※注意：

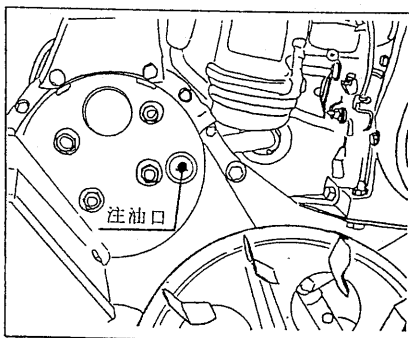
- ・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

☞…エンジン停止後、すぐに作業を行うと

- ・エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。
- ・安全のため、作業が終了するまでは点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

## ミッションオイルの注油・点検・交換

### ミッションケース

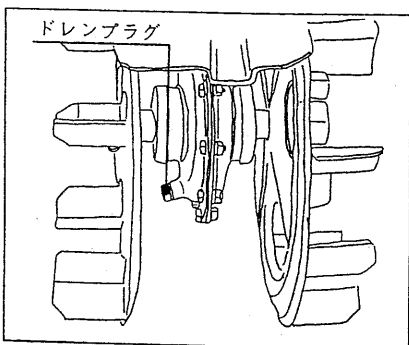


#### ◎注油…

ミッションケース左側面上部の注油口よりミッションオイル(#90)を0.8ℓ入れて下さい。

#### ◎点検…

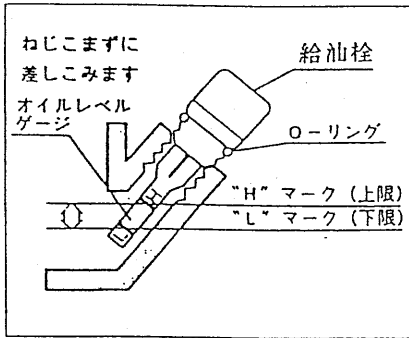
注油口よりミッションオイルが目視で確認出来ればほぼ規定量入っています。



#### ◎交換…

初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。

## エンジンオイルの注油・点検・交換



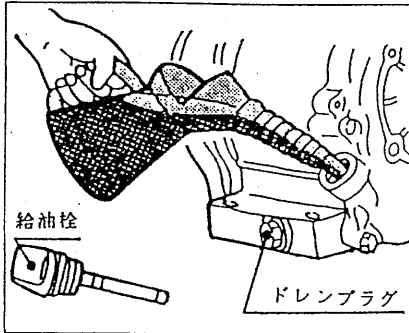
◎注油…〈8頁…エンジン始動のしかた参照〉

◎点検…

- ・給油栓についているレベルゲージでエンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルが入っていることを確認して下さい。

◎交換…

- ・初回は20時間目、それ以降は50時間運転毎を目安に交換して下さい。
- ・交換はオイル給油栓を外し、エンジン後部にあるドレンプラグ（排油口）を外して行って下さい。
- ・エンジンオイル注油後、オイル給油キャップを緩まないように手で確実に締付けて下さい。



●使用するエンジンオイルの質・量については8頁参照

参考：

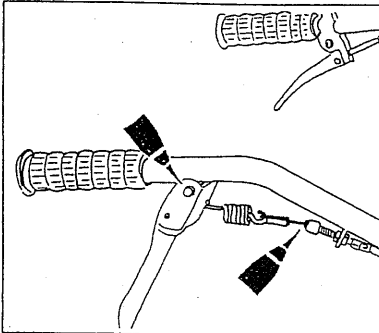
- ・エンジンオイルの抜き取りは暖機運転後、約5分以上立ってから火傷に注意して行って下さい。
- ・エンジンオイルの注油・交換は、必ずエンジンを停止して行って下さい。
- ・給油キャップは確実に締め付けて下さい。締め付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

## 各部への注油のしかた

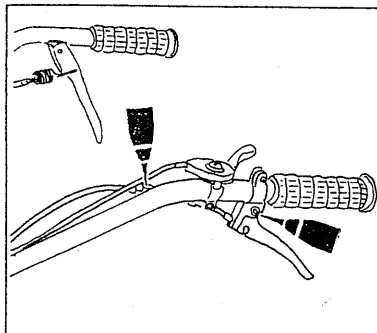
◎約30時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れにより操作が重くなり、最悪の場合破損の恐れもあります。

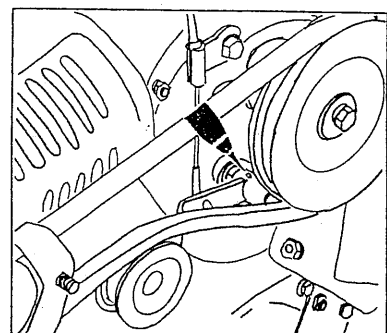
主クラッチワイヤー・レバー支点



ハンドル上下ワイヤー・レバー支点

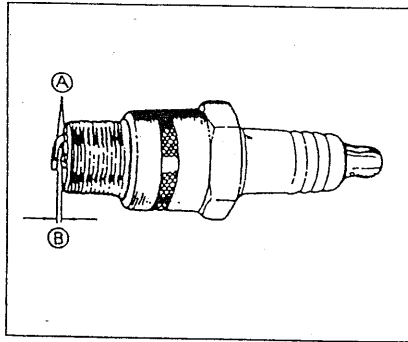


テンションアーム支点



## 《各部の点検・整備・調整のしかた》

### 点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分 ① にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間 ② を0.7~0.8mmに調整して下さい。

参考：

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

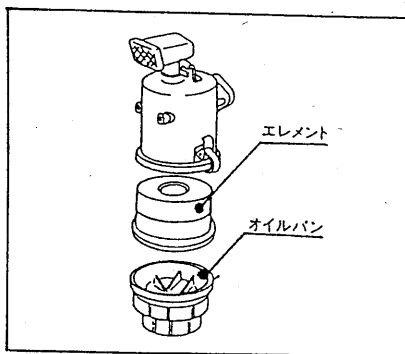
始からプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

☞…点火プラグ基準 (NGK) BP-4HS

### エアークリーナーの清掃のしかた

**!** 危険：

エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより火災の原因ともなりますので必ず定期的に清掃して下さい。



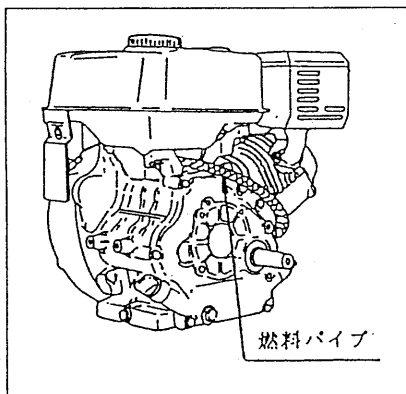
- ① クランプを外し、オイルパンを外します。
- ② オイルパン内にたまった草屑、泥等を白灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル (SAE10W-30 相当) をレベルまで入れて下さい。
- ③ フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後新しいエンジンオイル (SAE10W-30 相当) に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

☞…エアークリーナーの清掃、交換時期について

	清掃	交換
エアークリーナーオイル …	—	50 時間毎
フォームエレメント …	25 時間毎	300 時間毎

● チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

## 燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険：

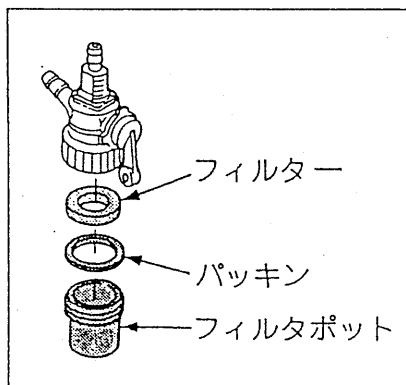
くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

※注意：

パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

## 燃料フィルターポットの清掃のしかた



⚠ 危険：

くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
  - ①燃料コックを「閉」位置にして下さい。
  - ②燃料フィルターポットを外し、燃料フィルターポット内部及びフィルターを引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、エアーを使って乾燥させて下さい。
  - ③元の通りに確実に組み付けて下さい。

⚠ 危険：

ガソリンやシンナー等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

※注意：

- ・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

## そのほかの点検

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ②Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。  
〈23頁…主クラッチワイヤー調整参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。

〈27頁…定期自主点検表参照〉

## 耕うん爪の点検と交換のしかた

### 〈点検〉

耕うん爪は始業前に必ず点検し、損傷・曲り、及び磨耗を点検して下さい。又、爪取付部のガタがないかも点検し、もし緩みがあれば増し締めをして下さい。

### ※注意：

ロータリーの脱着、耕うん爪の交換の際にはロータリーの回転方向、耕うん爪の向きに十分注意して下さい。

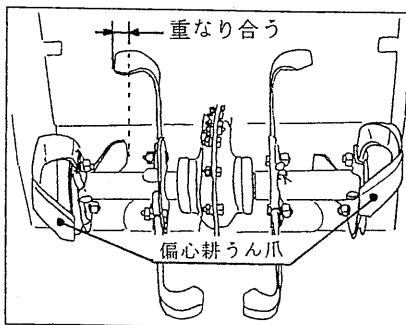
正面から見てお互いの耕うん爪が重なり合わなくなったら耕うん爪が磨耗しています。交換して下さい。

### 〈交換〉

参考：

- ・耕うん爪を交換する時には、ロータリーを外した方が楽に作業をすることができます。
- ・耕うん爪の取付ボルトを付属工具を使って外して交換して下さい。
- ・交換は一本ずつ行った方が取り付け位置を間違えずに済みます。
- ・ロータリーを本機に取り付ける場合にはロータリーの回転方向を間違えないように注意して取り付けて下さい。

### 〈耕うん爪の配列について〉



偏心耕うん爪を、一番外側に先端が内向きになるようにしてそれぞれ一枚ずつ取り付けます。

残りの耕うん爪のうち、内側の一枚を先端が外向きになるように取り付け、残りの二枚はそれぞれ先端が内向きになるように取り付けて下さい。

- 耕うん爪交換の際には、爪取り付けボルトが緩まないようにしっかりと締め付けておいて下さい。



## 各部ワイヤー調整のしかた



危険：

各ワイヤーを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

### 主クラッチワイヤー

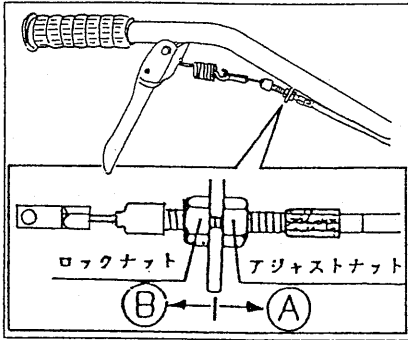


図 1

図 1 を参考に主クラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・主クラッチを入れても負荷がかかるとVベルトがスリップする場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・主クラッチの切れが悪い場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

※注意：

- ・主クラッチベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

	主クラッチベルトサイズ
ベルトサイズ	L B 3 4 × 1 本
調整時期	初回：20時間目 以後：100時間運転毎

- 各レバーにはいずれも3~5mm程度の遊びを持たせて下さい。
- 調整後はいずれもロックナットを確実に締付けておいて下さい。

### ハンドル上下ワイヤー

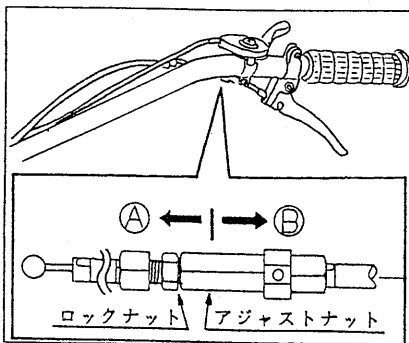


図 2

図 2 を参考にハンドル上下ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・レバーを操作してもハンドル上下できない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・ハンドルの上下にガタが多く、負荷がかかるとレバーを操作しなくてもハンドルが上下してしまう場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

- 各レバーにはいずれも3~5mm程度の遊びを持たせて下さい。
- 調整後はいずれもロックナットを確実に締付けておいて下さい。

《仕様》

名 称	エースローター “ピコ・ミニ”	
型 式 名	P 3 5 M	
全長×全幅×全高(mm)	1,050×550×720	
耕 幅(mm)	350	
耕うん爪	ナタ爪：左右各3本 ナタ爪偏心：左右各1本	
Vベルト	LB-34×1本	
重量(Kg)	39.5	
車 輪	鉄車輪(φ300)	
車幅[外幅](mm)	150・230(車輪表裏ピン差し替えによる)	
ハンドル上下	手元レバー式(上下4段階)	
ハンドル左右	菊座方式	
主クラッチ方式	ベルトテンション(デッドマン方式)	
ロータリー回転数(rpm)	363	
速 度 (Km/h)	作業	2.28
	移動	2.28
エ ン ジ ン	名 称	メイキ
	型 式	GM91
	最大出力(PS)	3.0
	始動方式	リコイル
	点火プラグ(NGK)	BP-5ES
燃料タンク容量(ℓ)		3.0

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具		1	エンジン付属品
④	両口スパナ	10×12	1	
	〃	17×19	1	
⑤	残耕スキ		1	

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部品番号	個数/台	備考
①	耕うん爪L	80-1110-821-00	3	
②	耕うん爪R	80-1110-822-00	3	
③	偏心耕うん爪L	80-1110-826-00	1	
④	偏心耕うん爪R	80-1110-827-00	1	
⑤	Vベルト	89-6123-003401	1	LB34
⑥	爪取付ボルトセット	83-1210-835-00	8	
⑦	主クラッチワイヤ	83-1111-933-00	1	
⑧	スロットルワイヤ	83-1110-951-00	1	
⑨	危険マーク①	83-1260-906-10	2	ロータリの回転部に…
⑩	警告マーク	0253-72500-00	1	車への乗せ降ろし…
⑪	注意マーク	83-1516-915-00	1	安全の為…
⑫	〃	83-1310-909-00	1	地面の硬い…
⑬				
⑭				
⑮				

## 《アタッチメント(別売品)の紹介》

品名	型式	コード No.	仕様
溝掘ローター	W15	5-1110-615-000	溝底幅150mm、3本爪
	W20	5-1110-620-000	" 200mm、4本爪
	W25	5-1110-625-000	" 250mm、4本爪
片排土ローター	W15K	5-1110-715-000	溝底幅150mm、3本爪 W15と併用
	W25K	5-1110-725-000	溝底幅250mm、4本爪 W20・W25と併用
タイヤセット	350-5A	5-1110-120-000	チューブ、ボス付 外径300mm
延長ローター	ER50	5-1110-810-000	延長耕幅150mm
草巻防止ドラム	D35	5-1110-805-000	中耕ローターに装着
延長車軸	35	5-1110-100-000	車幅350mm
鎮圧ロール	SE-R3	5-1110-195-000	幅470mm×2

## 《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
残耕が出る	爪が減っている	爪を交換する(爪交換時は全数交換の事)
	爪の取り付け方が間違っている	正しく爪をセットする
	センタードライブのため	耕うん幅を重ねる
ダッシングが起きる	作業抵抗が大きすぎる	作業深さを浅くする
	圃場が堅い	2回に分けて作業する
平面耕ができない	耕うん爪の取り付けが間違っている	正しくセットする
	ロータリーの左右が逆になっている	正しくセットする
ベルトがスリップする	ベルト張力が低い	ベルトの張力を調整する
	ロータリーカバー内に泥、異物が詰まっている	ロータリーカバー内を清掃する
	圃場が湿っている	圃場が乾くのを待ってから作業を始める
	ベルトの磨耗	新しいベルトと交換する
車輪(鉄車輪)がスリップする	作業抵抗が大きすぎる	作業深さを浅くする
	ロータリーカバー内に泥、異物が詰まっている	ロータリーカバー内を清掃する
	圃場が湿っている	圃場が乾くのを待ってから作業を始める
	残耕スキがセットしてある	敵立て作業以外は取り外す
作業負荷が大きい	エンジン回転が低い	エンジン回転を最高にする(エンジン回転数をチェックする)

※分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

## 《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月例	年次		
原動機	本体	① かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		② 回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③ 排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④ エアークリーナーの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤ シリンダーヘッドと各マニホールド締付け部の緩み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 * (正常締付けトルクで緩みはないか。)			○
		* ⑥ 弁すきま	(正規のすき間であるか。)			○
		* ⑦ 圧縮圧力	(正規の圧縮圧力であるか。)			○
		⑧ エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに緩みはないか。	○	○	○
機	潤滑装置	① 油量、汚れ	オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		② 油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	① 燃料漏れ	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		② 燃料フィルターの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
	電気装置	① 電気配線の接続部の緩み、損傷	ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。		○	○
伝達装置等	Vベルト	① 緩み	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		② 損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	① 異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。		○	○
		② 油量、汚れ	オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。			○
		③ 油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	① 亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。		○	○
	カバー	② 亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤー	① レバー及びワイヤー類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損	作動及び取付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置等	タイヤ (ホイール)	① 空気圧及び溝の深さ	基準値内であること。	○	○	○
		② 亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③ 金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ ガタ、異音	取付け部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	① 損傷	注意・危険・指示路板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ \*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

## 《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

現象	原因	処 理
始動困難な場合。	アクセルレバーが「始動」の位置でない。	アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジンが冷えている時、チョークレバーを引いて始動する。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。 燃料コックのストレーナーカップを取り外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフィルターに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	バルブ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	気温によってオイルの使い分けをする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極のスキマを点検し調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアークリーナーの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	シリンダー・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。
突然停止した場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが開いていない。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
マフラーから黒煙が出て出力が低下した場合。	エアークリーナーエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
マフラーから青白煙が出た場合。	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダー・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。

※わからない場合は、お買い上げ頂きました販売店にご相談下さい。



株式会社  
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
仙台営業所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2-1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長野サービス センター	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関東営業所	〒337-0051	埼玉県久喜市菖蒲町菖蒲2800	TEL. 0480-87-3008(代) FAX. 0480-87-3009
名古屋営業所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡山営業所	〒700-0951	岡山県岡山市田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福岡営業所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿児島営業所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491